

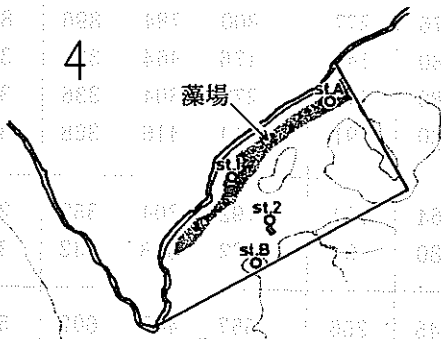
### Ⅲ 名蔵湾保護水面（藻場）

調査担当者

杉山 昭博

フエキダイ類等有用水産動物資源の繁殖保護にとって有効に機能していると考えられる藻場においての植物、底生生物、魚類、人工礁、および水質調査を継続しておこない、現在の環境条件と生態的メカニズムを正しく把握することに努めた。

各調査地点は図1に示すとおりである。



- st. A : 海草生育密度
- st. B : 人工礁
- st. 1 : 水質、底生生物、柵網漁獲試験
- st. 2 : 水質

図1 調査地点

#### 1. 植物調査

1983年5月27日から1984年2月8日までの間毎月1回、定点においてリュウキュウアマモとリュウキュウスガモの生育密度を調査して季節的変化を調べた。定点には25cm×25cmの方形枠を3ヶ所設置して、枠内の株数をシュノーケル、またはスキューバ潜水で測定した。なお、方形枠は1981年に設置以来継続して使用している。

結果は表1と図2に示すとおりである。リュウキュウアマモでは各枠とも5月にもっとも良く繁茂し、それぞれ1,008、560、および928株/m<sup>2</sup>で平均832株/m<sup>2</sup>である。そして、その後減少する傾向がみられる。リュウキュウスガモでは各枠とも夏季の7、8月にもっとも良く繁茂しそれぞれ1,328、816、および1,600株/m<sup>2</sup>で平均1,163株/m<sup>2</sup>である。また、リュウキュウアマモとリュウキュウスガモの平均値の合計はリュウキュウスガモの場合と同様に夏季に高い値がみられる。

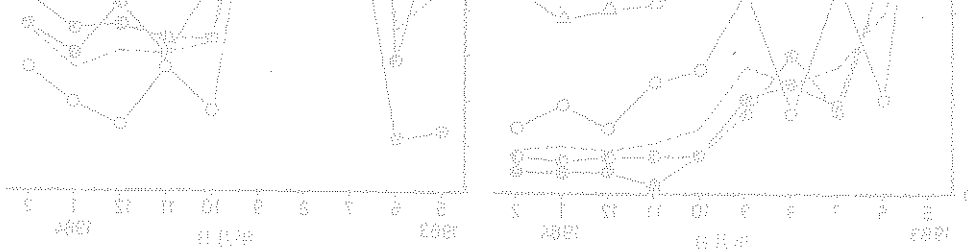


表1 リュウキュウアマモとリュウキュウスガモの生育密度 (株/㎡)

種	方形枠No.	リュウキュウアマモ				リュウキュウスガモ				a + b
		1	2	3	平均(a)	1	2	3	平均(b)	
1983	5. 27	1,008	560	928	832	560	128	656	448	1,280
	6. 12	208	496	480	395	656	112	288	352	747
	7. 11	464	192	176	277	1,168	720	1,600	1,163	1,440
	8. 8	176	240	304	240	1,328	816	752	965	1,205
	9. 6	448	208	176	277	800	784	896	827	1,104
	10. 22	272	80	80	144	176	464	336	325	469
	11. 10	240	16	80	112	272	304	336	304	416
	12. 16	144	48	80	91	144	416	368	309	400
1984	1. 10	192	48	64	101	192	304	352	283	384
	2. 8	144	48	80	91	272	368	432	357	448
平均		330	194	245	256	557	442	602	533	789

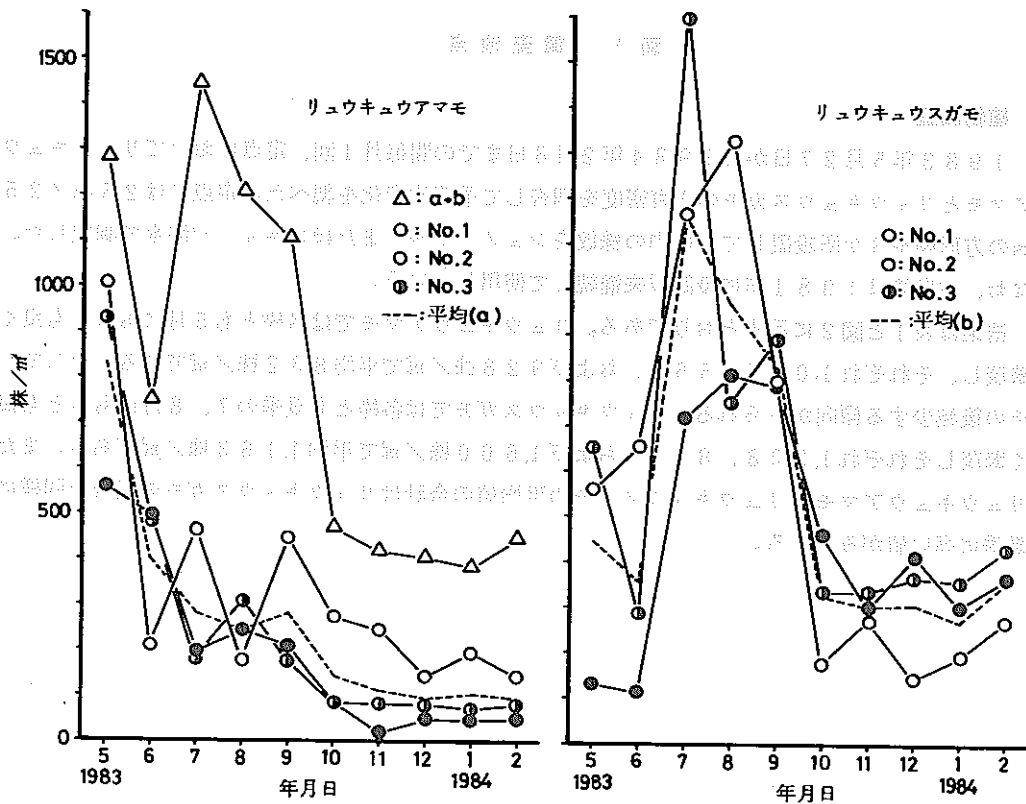


図2 リュウキュウアマモとリュウキュウスガモの生育密度の季節的变化